資産回収と没収

Dr Alexander Ressos, TEP
Attorney-at-Law (Switzerland and Germany),
Solicitor (England & Wales and Hong Kong)
Of Counsel, KGP Legal LLC
alexander.ressos@kgplegal.com.sg
www.ressos.com.sg

CDSAに基づく没収

CDSAは、検察官の申立てにより、麻薬取引または重大犯罪で有罪判決を受けた者に対して、裁判所が没収命令を発することを認めています。没収制度の射程は、犯罪の道具をはるかに超えています。第4条第5項は、同法が「シンガポール国内にあるか他の地にあるかを問わず、あらゆる財産に適用される」と定めています。第6条第6項および第7条第6項によれば、被告人が保有する財産のうち、その既知の収入源に比して不均衡なものは、反証があるまで、犯罪による利益と推定されます。第10条および第11条は、利益の算定に関するルールを定めています。[1]

この推定は、被告人に重い負担を転嫁します。シンガポールでの没収が合意によって実現されることが多いのはそのためです。自らの資産について説明できない被告人は、争いのある審理では、交渉による没収よりも多くを失うおそれがあるからです。以下で述べる2023年の事件は、この力学の実際の効果を示しています。

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

逃亡した被告人と死亡した被告人

金融犯罪では、裁判を受ける前に法域を離れる被告人がしばしば関係します。CDSAは、有罪判決の擬制によってこの問題に対処しています。逃亡した者は、他の条件に加え、捜査開始から6か月の期間の満了時に「所在が判明せず、逮捕も引渡しもできない」場合に、麻薬取引犯罪または重大犯罪について「有罪判決を受けたものとみなされる」とされます。裁判所は、逃亡と証拠について心証を得ない限り、このようなみなし有罪判決に依拠して没収命令を発することはできません。第31条は死亡した被告人について別の制度を定めており、そこでは一般的な推定は適用されず、代わりに6年の遡及期間が適用されます。[2]

これらの規定は、刑事犯罪との結び付きを放棄することなく、有罪判決に基づかない没収に近い手段をシンガポールに与えています。これらは国境を越える事件で重要です。そうした事件では、主たる犯罪者が国外に住んでいることが多く、手の届く資産はシンガポールの銀行口座、不動産および会社だけだからです。

外国の没収命令の執行

MACMA第29条に基づき、指定外国は司法長官に対し、「シンガポールに所在すると合理的に信じられる」財産に対する外国の没収命令の執行への協力、または命令が発せられる前の当該財産の処分の制限を要請することができます。司法長官は、外国の命令の登録を高等法院一般部に申し立てます。裁判所は、命令が効力を有し、それ以上の上訴の対象とならないこと、出頭しなかった利害関係人が防御のために十分な時間的余裕をもって通知を受けていたこと、そして執行が「司法の利益に反しない」ことを条件として、これを登録することができます。命令が履行された時点で、登録は取り消されなければなりません。[3]

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

この制度は、第三者を保護する条件の下で、シンガポールの裁判所を通じて外国にシンガポール国内の資産へのアクセスを与えるものです。外国の確定命令に依存しているため、この制度は、自国の裁判所が機能している国との間で最もよく機能します。外国の判決が遅れたり、政治的に争われたりしている場合、資産は何年にもわたってシンガポールで保全されたままとなることがあります。

1MDB：差押えと返還

1MDB事件は、資産回収の射程とその速度の双方を示しています。司法長官室とシンガポール金融管理局は、捜査の過程で総額2億4,000万シンガポールドルの資産を差し押さえ、そのうち1億2,000万シンガポールドルはジョー・ローとその家族のものであったと報告しました。2018年9月、州裁判所はマレーシアへの1,530万シンガポールドルの返還を認めました。複数の大陸にある資産を対象として民事没収訴訟を提起した米国は、2021年8月、総額12億米ドルを回収・返還したと報告しました。[4] この割合の違いは、利用可能な手段の違いを反映しています。*in rem*（対物的）な民事没収により、米国の検察官は刑事上の有罪判決なしに資産に対して手続を進めることができました。これに対し、シンガポールからの返還には、刑事捜査に関連する手続における同国の裁判所の命令が必要でした。

2023年のマネーロンダリング事件

第2の例は、2023年8月15日の一斉捜索に始まったマネーロンダリング事件です。10人の外国人が有罪判決を受け、それぞれ13か月から17か月の拘禁刑を言い渡されるとともに、合わせて約9億4,400万シンガポールドルの資産を没収されました。2024年11月18日には、なお指名手配中であった17人の被疑者のうち15人が、約18億5,000万シンガポールドルの資産を放棄することに同意し、総額は約28億シンガポールドルに達しました。関係する金額に比べて、刑期は短いものでした。真の制裁は没収だったのです。没収の脅威により、法域外にいる者たちは、裁判を受けるために戻ることなく

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

資産を手放すよう促されました。この事件とその規制上の余波については、2025年7月4日にシンガポール金融管理局が発表した9つの金融機関に対する総額2,745万シンガポールドルの制裁金を含め、第E部第VI章で論じています。[5]

資金の行方

没収された収益と訴追延期合意に基づいて支払われた制裁金は、国家に帰属します。前述のとおり、訴追延期合意に基づく制裁金および吐き出された利益は統合基金に納付されます。合意によって補償を求めることができるため、被害者が忘れられているわけではありません。しかし外国公務員贈賄事件では、被害者は通常、外国の国家または国有企業であり、その請求は自国の裁判所において、または会社との独自の和解を通じて追求されます。Seatriumとの合意における相殺条項は、ブラジルも請求している金銭をシンガポールが受け取ることを避けるための仕組みです。

注

1. CDSA, s 4(5) and ss 6–7（没収命令）（lawplayer.comに掲載された条文による、2026年11月最終閲覧）；CDSA, ss 6(6), 7(6), 10(1) and 11(1)（lawplayer.comに掲載された条文による、2026年11月最終閲覧）。 ↩
2. CDSA, s 29(1), (2)(b)(ii) and (3)(b)(ii)（lawplayer.comに掲載された条文による、2026年11月最終閲覧）；CDSA, s 30（lawplayer.comに掲載された条文による、2026年11月最終閲覧）；CDSA, s 31(4)–(6)（lawplayer.comに掲載された条文による、2026年11月最終閲覧）。 ↩
3. MACMA, s 29(1)(a) and (b)（lawplayer.comに掲載された条文による、2026年11月最終閲覧）；MACMA, s 30(1), (2) and (4)（lawplayer.comに掲載された条文による、2026年11月最終閲覧）。 ↩
4. Wikipedia, “1Malaysia Development Berhad scandal”（2026年11月最終閲覧）、シンガポールに関する節：総額2億4,000万シンガポールドル

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

の資産が差し押さえられ、そのうち1億2,000万シンガポールドルはジョー・ローとその家族のものであった；2018年9月、州裁判所はマレーシアへの1,530万シンガポールドルの返還を認めた；Wikipedia, “1Malaysia Development Berhad scandal”（2026年11月最終閲覧）：米国は2021年8月時点で“recovered and returned a total of US$1.2 billion of 1MDB funds misappropriated within its jurisdiction”。 ↩

5. Wikipedia, “2023 Singapore money laundering case”（2026年11月最終閲覧）：2023年8月15日の一斉捜索；10人が有罪判決；有罪判決を受けた10人により9億4,400万シンガポールドルが没収；2024年11月18日、指名手配中の被疑者17人のうち15人が約18億5,000万シンガポールドルの放棄に同意；総額約28億シンガポールドル；Wikipedia, “2023 Singapore money laundering case”（2026年11月最終閲覧）：2025年7月4日にMASが9つの金融機関に科した総額2,745万シンガポールドルの制裁金。 ↩

Disclaimer

This article is provided for general information only. It is based on publicly available sources as at its date of publication. These sources have not been independently verified against licences, regulatory registers or the records of the entities concerned. It is not legal, tax, financial or investment advice. Nor is it a recommendation to invest in, transact with or use the services of any entity mentioned. Law and regulation change frequently, so the content may be incomplete or outdated. To the fullest extent permitted by law, Dr Alexander Ressos and the publisher of SingaporeIQ exclude all liability for loss or damage arising from the use of or reliance on this article. Readers should obtain advice on their specific circumstances before acting or refraining from action.

Names and trademarks of the entities discussed belong to their owners and are used for identification only. Their mention implies no endorsement, affiliation or allegation of wrongdoing. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. Corrections and updates: contact@ressos.com.

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.

© 2026 Dr Alexander Ressos. This article may be quoted with attribution to SingaporeIQ (SingaporeIQ.com). Reproduction in full and any commercial use require prior written consent. The Legal Terms at https://singaporeiq.com/legal-terms apply.

Author contact: Dr Alexander Ressos, TEP · contact@ressos.com

© 2026 Dr Alexander Ressos. General information only, not legal, tax or investment advice. No client relationship is created. All Singapore law advice is provided by a duly licensed and regulated firm of Singapore advocates and solicitors only on the basis of an express written letter of engagement. More information at SingaporeIQ.com and ressos.com.sg.